



原子力安全・保安院からの回答

●安心を保安院に期待

意見

住民は事業者に安全性を、安心は保安院に期待しているが、それがタイムリーに見えないのが不安。国には安全性に対する責任があることを発信することで安心を与える。

●保安院の活動評価は

Q 保安院パンフレットには広報、評価活動という部分があるが、評価の検証はされているのか。

A 評価といっても地元の反応、安全委員会の監視機能、プレスからの評

価など多面的なものがあると思うが、数量化するようなシステムはできていない。

Q ホームページから意見募集も可能だが、活用されているか。

A ホームページに限らず意見は来る。但し、必ずしも返事はできないが。

●前向きな姿勢を望む

意見

保安院の信頼回復のために、問題が大きくなってからの後追いではなく、前向き・積極的に取り組むべき。不手際を反省と言うが、具体的に何に対してどう反省し、今後どうするのか。

代表質問II

上について

◇技術レベルを向上させ、すばやいチェック、すばやい・正しい判断ができるような組織にし、最終的な責任は保安院が取りますという姿勢を貫いて欲しい。

◇地域住民が安心して暮らせるよう「保安院がチェックしていれば絶対安全。異物混入も今後はありません。」ときちんとと言えるのか。

◎保安院回答

・我々が発電所の規制・監督をし、その結果、安全確保されていることが結果として目に見え、それを住民に伝えることが信頼回復・安心につながると思う。

・そのためにはルールの透明性、検査・審査がそのルールに乗っ取ってこう判断したことを伝える、それによって安心感の醸成につながる。

・それを伝える場合、わかりやすくするため、試行錯誤を重ねていきたい。

●保安院はもう一歩前に

意見

保安院がもう一歩前に出て住民に情報を伝えることが一番の安心につながる。

●保安院の組織強化を

意見

米国の規制機関に比べると規模・能力とも劣っているのでは。もっと税金を投入し、安全をキチンと確保する組織になつて欲しい。

意見

事業者よりもレベルが上でないと安心できない。事業者は研修センターを造って研究・努力している。

A 品質保証資格の取得、民間からの採

用者を講師にした研修など資質向上のた